

高校生が県産品 PR のために開発

かつりんとう・フランネ

より安心安全な商品を



▲ラベルの可愛らしいフラガールのイラストは、校内でコンテストを実施して決まりました

いわき市の県立平商業高校流通ビジネス科では、平成20年度から県産品を使つた商品の開発・販売に取り組んでいます。平成22年度に誕生した『かつりんとう』は、震災後は宮城県産を使用していましたが、今年



左から
志賀 裕美さん・高野 賢司教諭・佐藤 実紀さん
(流通ビジネス科3年)

平成23年度に開発された『フランネ』は、フラガールの街十郎ムネから生まれたネーミング。いわきを代表する観光スポット・スパリゾートハワイアンズをほうふつさせるブルーハワイ味と、いわき市の特産品

度はいわきに水揚げされたかつおで再び製造することができます。「かつおとかりんとうは意外な組み合われですが、生徒たちから出たアイディアはとりあえず試してみよう」と高野教諭。生のかつおと製品の段階で、いわき明星大の協力を得て生徒自らの手で放射性物質検査を実施し、安全性も確認済み。おから・ごま・かつおのすり身を練り込んだ甘さ控え目のかりんとうは消費者の評判も上々で、今年度分はすでに完売しています。

である梨風味の2種類があります。道の駅よつくら港で通年販売されており、同所で行う販売実習では消費者の声をじかに聞くことができ、生徒たちの活動の励みになっています。また昨年は季節限定で、「いちご」を使った「どらいいちご」と「焼きドーナツ」も開発。「田人町の観光いちご園が、風評被害により売れ残つたいちごを廃棄しているという話を聞き、それを利用したものが出来ないかと考案しました」と志賀さん。「いちごも放射性物質検査済みです。日本で一番安全な食材を使用しているとアピールすることで、福島県への風評を払拭したい」と佐藤さん。同校では、今後も地元の産品を活用しながら商品開発に取り組んで行きたいと、農業や水産業だけでなく林業との連携も考えていく予定です。

である梨風味の2種類があります。道の駅よつくら港で通年販売されており、同所で行う販売実習では消費者の声をじかに聞くことができ、生徒たちの活動の励みになっています。また昨年は季節限定で、「いちご」を使った「どらいいちご」と「焼きドーナツ」も開発。「田人町の観光いちご園が、風評被害により売れ残つたいちごを廃棄しているという話を聞き、それを利用したものが出来ないかと考案しました」と志賀さん。「いちごも放射性物質検査済みです。日本で一番安全な食材を使用しているとアピールすることで、福島県への風評を払拭したい」と佐藤さん。同校では、今後も地元の産品を活用しながら商品開発に取り組んで行きたいと、農業や水産業だけでなく林業との連携も考えていく予定です。



▼販売実習で、消費者の反応をじかに知ることができました



▲生徒自らかつおの買い付けにも行きました